

## ○将来的な新規就農者の育成

### 1. 集落協定の概要

市町村・協定名	愛媛県大洲市 <small>おおずし</small> 稲積 <small>いなづみ</small>			
協定面積 5.0ha	田 (88%)	畑 (12%)	草地	採草放牧地
	水稻	キウイ、栗		
交付金額 77万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	役員手当等		12%
		鳥獣害対策費		12%
		病害虫対策費		24%
		農業機械取得費		1%
その他		1%		
協定参加者	農業者 11人、非農業者1人			開始：平成12年度

### 2. 取組に至る経緯

稲積集落では、農家の高齢化の進行はもちろんのこと、離農する農家も多くなってきており、第3期対策への移行に際して、第2期対策参加者の半数が協定への不参加を表明していたことから、将来にわたって集落の荒廃が懸念されていた。

そこで、新規就農者の確保・育成に取り組むことにより、元々あった集落の活気を復活させようと試みた。

### 3. 取組の内容

第3期対策の当初、地元農業委員を通じて新規就農希望者を募ったところ、2名の希望者があったため、まず農地の確保に取り組んだ。

初めに、集落内の耕作放棄地所有者に農地の売買を交渉し、名義を新規就農者に切り替えることにより、農業での自立を支援した。また、新規就農者は、稲作未経験者であるため、田植えから稲刈りまでの技術指導を集落全体で行っている。

また、幼少時から農業にふれあうことにより農業の楽しさを知ってもらい、将来の農業の担い手を確保することを目的に、平成15年度に地元小学生を対象にした農業体験ができる農園を開設し、現在も、稲・じゃがいも・サツマイモの作付け・栽培管理等について指導を続けている。



【新規就農者が作付けた稲の収穫の様子】



【小学生との農業体験の様子】

**[集落の将来像]**

- 高齢化が進んでいく中、参加者が互いに助け合い、耕作や農地の維持管理に取り組んでいく協力体制の維持
- 稲作中心の農業に取り組み、食料自給率の向上を目指す



**[将来像を実現するための活動目標]**

- 新規就農者への技術指導・支援により自立を促す

農業生産活動等	多面的機能増進活動	農業生産活動の体制整備
農地の耕作・管理 (田 4.4ha、畑 0.6ha) 個別対応	周辺林地の下草刈り (約 0.7ha、年 2 回) 共同取組活動	機械農作業の共同化 共同取組活動
水路・作業道の管理 ・水路 0.8km 年 2 回 清掃、草刈り ・道路 0.9km、年 2 回 草刈り 共同取組活動	鳥獣害対策 集落全域に電柵を設置 (約 5ha) 共同取組活動	新規就農者の育成 (今期より参加の新規就農者 2 名に対し、稲作の技術指導 を実施) 共同取組活動
担い手への農作業の委託 共同取組活動	体験農園運営 地区の小学校と連携し、体験 農園を実施 (田 7 m <sup>2</sup> 、畑 3 m <sup>2</sup> ) 共同取組活動	

**4. 今後の課題等**

新規就農者は、就農から3年が経過したことにより、地元の指導者が不在であっても稲作に従事することができるようになり、現在では収穫時の喜びを大いに噛み締めているとのことである。今後は、さらに多くの新規就農者を受け入れられるような体制を整える必要がある。

体験農園については、地元小学校が児童数の減少により平成 25 年 3 月をもって廃校となるため継続が危ぶまれている。今後は、合併先の小学校と交渉を行い、農業体験の継続を図る必要がある。

**[第 2 期対策の主な成果]**

- 乗用田植機の共同利用による営農の効率化及び低コスト化
- 地元小学校との連携により、農業体験ができる農園を開設  
(平成15年度から現在まで継続中)